



令和6年2月20日(火)  
第11回 うすきプラットフォーム

# 「民間企業」との協働について

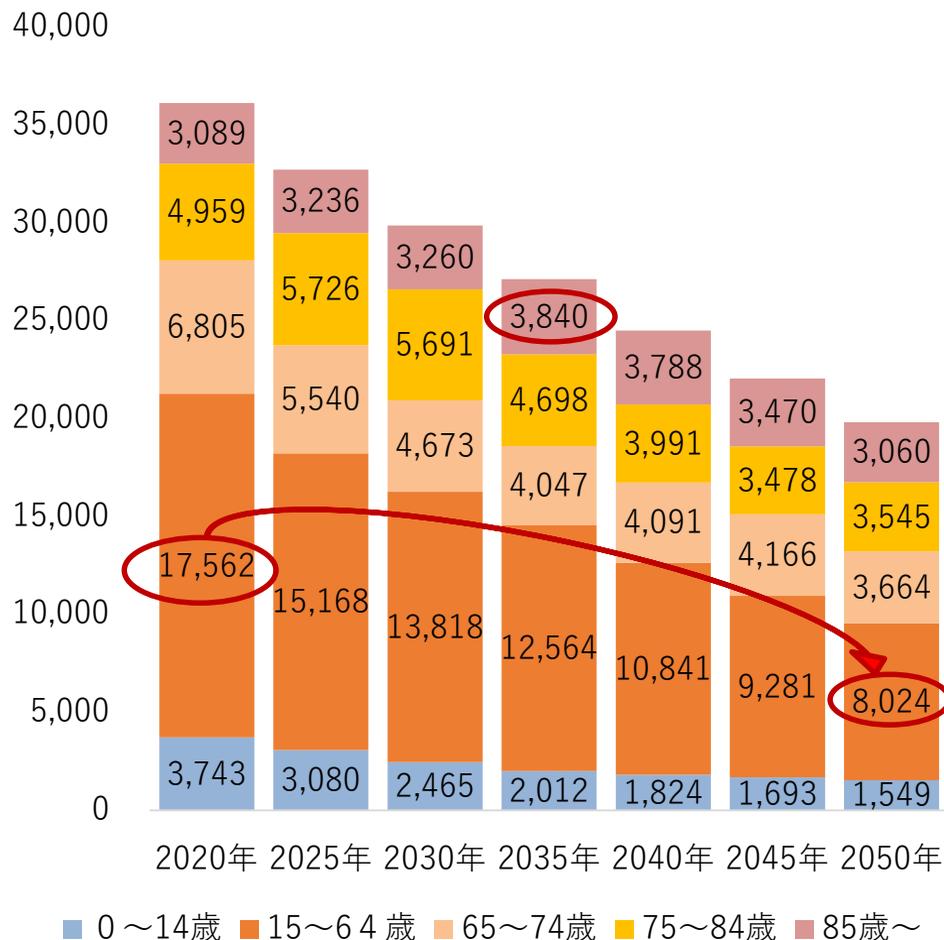
臼杵市地域力創生課



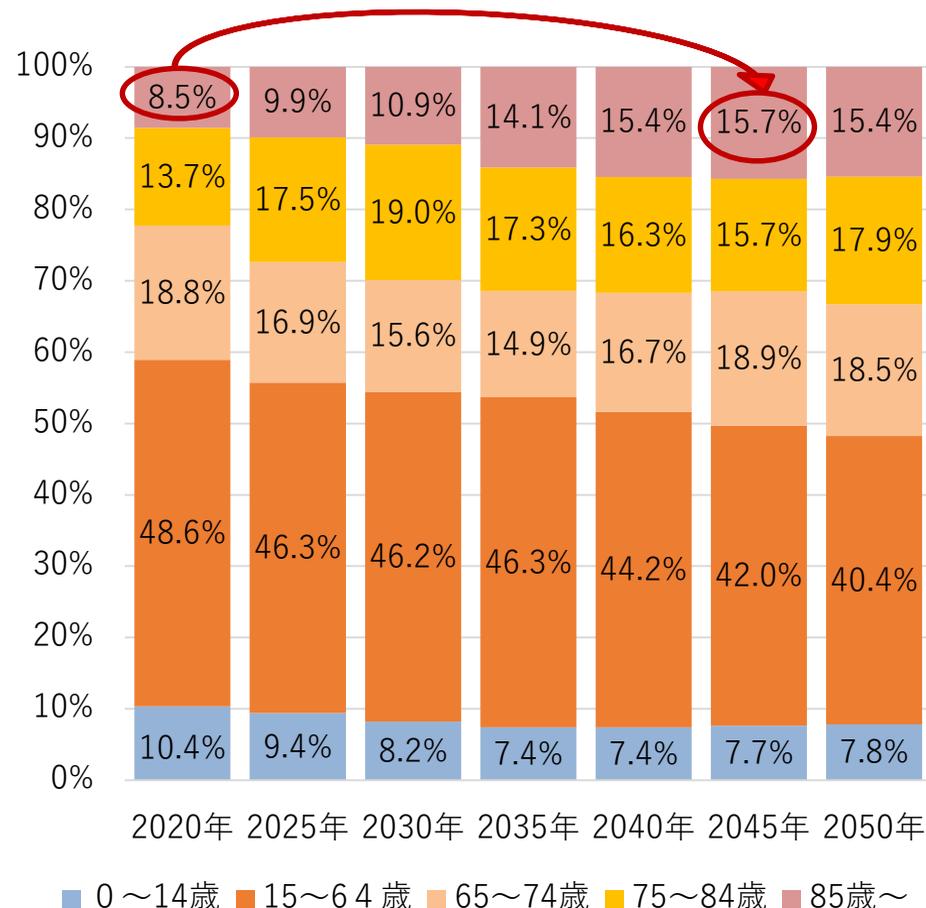
# 白杵市の将来人口推計について（令和5年推計）：再掲

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
総人口	36,158	32,750	29,907	27,161	24,535	22,088	19,842

## 【世代別の人口推移】



## 【世代別の構成比率】



# 白杵市民を取り巻く生活環境の変化と対応方針について：再掲

- 日本全体の人口減少を含め、社会全体が大きく変化していますが、日々の生活の中では実感しにくく、知らず知らずのうちに私たちの暮らしにも様々な影響が表れてきています。
- 様々な選択肢が増えている一方で、個人が抱えるリスクが多様化、複雑化しており、これまで通りの公的な制度やサービスの充実だけでは、生活する上での課題が解決しにくくなっています。
- 多様な関係者が協力し、工夫する「**参画と協働**」を推し進めることが、地域を活性化し、持続的に発展させていきます。

## 社会全体の変化

- ・ 平均寿命の延伸
- ・ 長期にわたる経済の低迷
- ・ 雇用慣行や労働環境の変化
- ・ 少子高齢化の進展
- ・ 共同体機能（血縁、地縁、社縁）
- ・ 人生観や生活様式の変化
- ・ 対面での交流機会の減少
- ・ 成人年齢の引き下げ …等

## リスクの多様化

- ・ ライフイベント（就労、進学、恋愛、結婚、出産、離別等）に伴う想定外の環境変化
- ・ いじめ、差別、虐待、病気、障がい、生活困窮、社会的孤立、災害、事故、感染症、加齢による衰え、家族の介護といった個別性が高く、非定型の課題
- ・ 様々な生きづらさや既存制度への適合しにくさ …等

## 身近な課題の変化

- ・ 全産業における労働者不足
- ・ 多様で複雑化した課題の顕在化（ヤングケアラー、ワンオペ育児、就職氷河期、望まない孤独や孤立…）
- ・ 気にかかけ、支えあう意識の減退
- ・ 地域の人材不足
- ・ 将来への不安感
- ・ 生活における課題の複雑化 …等

## 健康的に暮らし、無理なく参画し、協働できる「市民が主役のまちづくり」（地域力創生）

### 【支える力】を高めていく

- ・ どこに相談しても、適切な支援につながる分野横断的な連携体制
- ・ 協働できる相手を増やし、多様な参画と協働の機会を増やす
- ・ つながりを通じた人材確保

多機関・多職種で地域を支える

多機関・多職種連携

### 白杵の将来を見据えた参画と協働のまちづくり

コミュニティで地域を守る

### 【守る力】を高めていく

- ・ 暮らしやすく、魅力的な地域づくりと情報の発信
- ・ 移住者の増加による活性化と多様な人々の活躍の場づくり
- ・ つながりを通じた人材育成

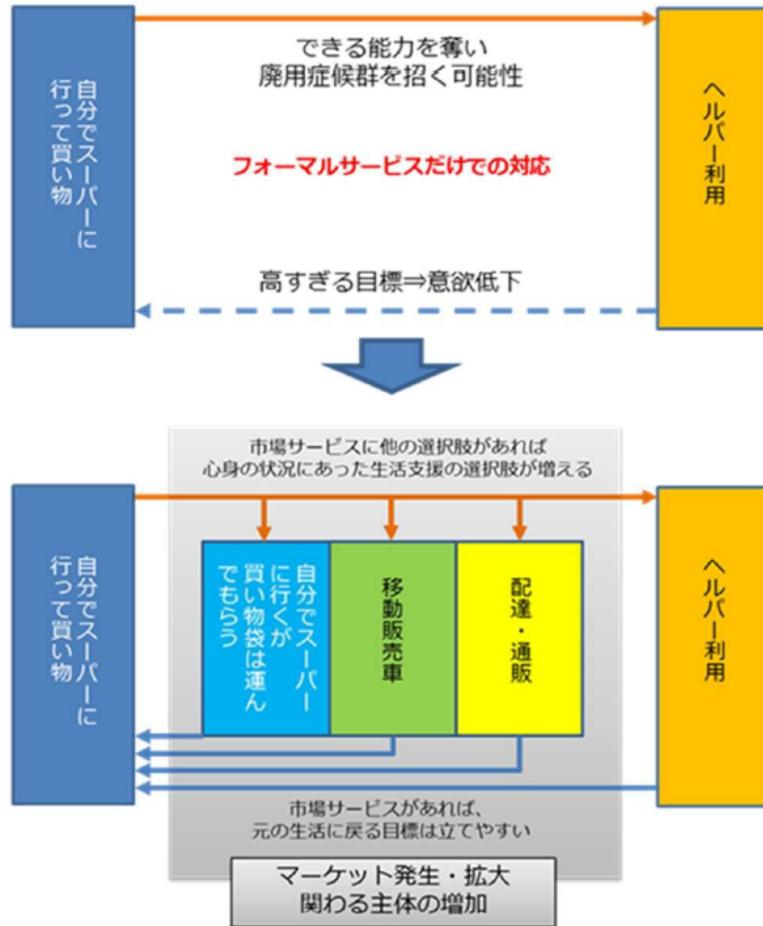
地域連携



# あるべき姿の再確認「市場サービスの役割」

## 生活支援・介護予防と市場サービス等の役割

### (例) 自分でスーパーで買物をしていた高齢者が心身の悪化により買物ができなくなったケース



(図上) ヘルパー利用以外に選択肢を持たない場合、買い物に行くという工程の中の「本人ができる行為」までサービスに移行してしまう可能性がある。

また高齢者の活動量を低下させ、廃用症候群を進行させる可能性がある。

さらに、元の生活を取り戻すには、買物をすべて任せる状態から、全部自分で行うという目標を立てることになり、高すぎる目標が意欲低下に繋がり、介護予防の取組効果を低減させる可能性がある。

(図下) 生活支援にインフォーマルサービスを活用し、選択肢を増やした場合、残存する本人の能力を活用することによって廃用症候群の進行を防ぐとともに、自分らしい生活から遠ざからないメリットがある。

また、介護予防の目標を立てる際も、元の生活とのギャップが小さく、元の生活に戻る意欲を持ちやすい。

生活支援の方法を本人が選択できることは、自分らしく主体的な生活を支援する自立支援の本質的な取組である。

また、こうしたアプローチは民間企業にとっては新たなマーケットへの入口となり、協働を行うきっかけとなる。

さらに、地域において高齢者の生活支援にかかわる主体が増やしていくことも、地域づくりの重要な要素である。

## 認知症への取組みの拡大の可能性

認知症施策で繋がっている民間企業に生活支援という課題を伝えていくことで協働は進みやすくなる可能性がある。

また、民間企業がすでに社会課題と考えている認知症高齢者の支援体制を強化することを改めて行い、同時に生活支援分野の課題も伝えていくという手法も考えられる

### (事例 1)

**和歌山県御坊市**

「認知症の人とともに築く総活躍のまち」

### (事例 2)

**京都府宇治市の企業アライアンス**

「れもねいど」

### (事例 3)

**ゆめタウン南行橋店「スローレジ」**

### (事例 4)

**山口県防府市**

「ほうふ・てごネっと」

## 民間企業との協定締結を活用する

民間企業との協定締結が市役所と民間企業の垣根を低くし、民間企業と積極的に連携する風土が生まれている。

### (事例 1)

**神奈川県藤沢市**

「マルチパートナーシップ」

## 既存の自治体リソースを活用する

災害時の移動販売車の運休情報を市の公式LINEアカウントや防災無線を用いて告地

### (事例 2)

**福岡県うきは市**

「地域活性化及び地方創生推進に関する連携協定」

ほうふ・てごネっとは、地域住民・団体と地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・訪問サービス事業所をつなぎ、高齢者の困りごとを解決する仕組みです。

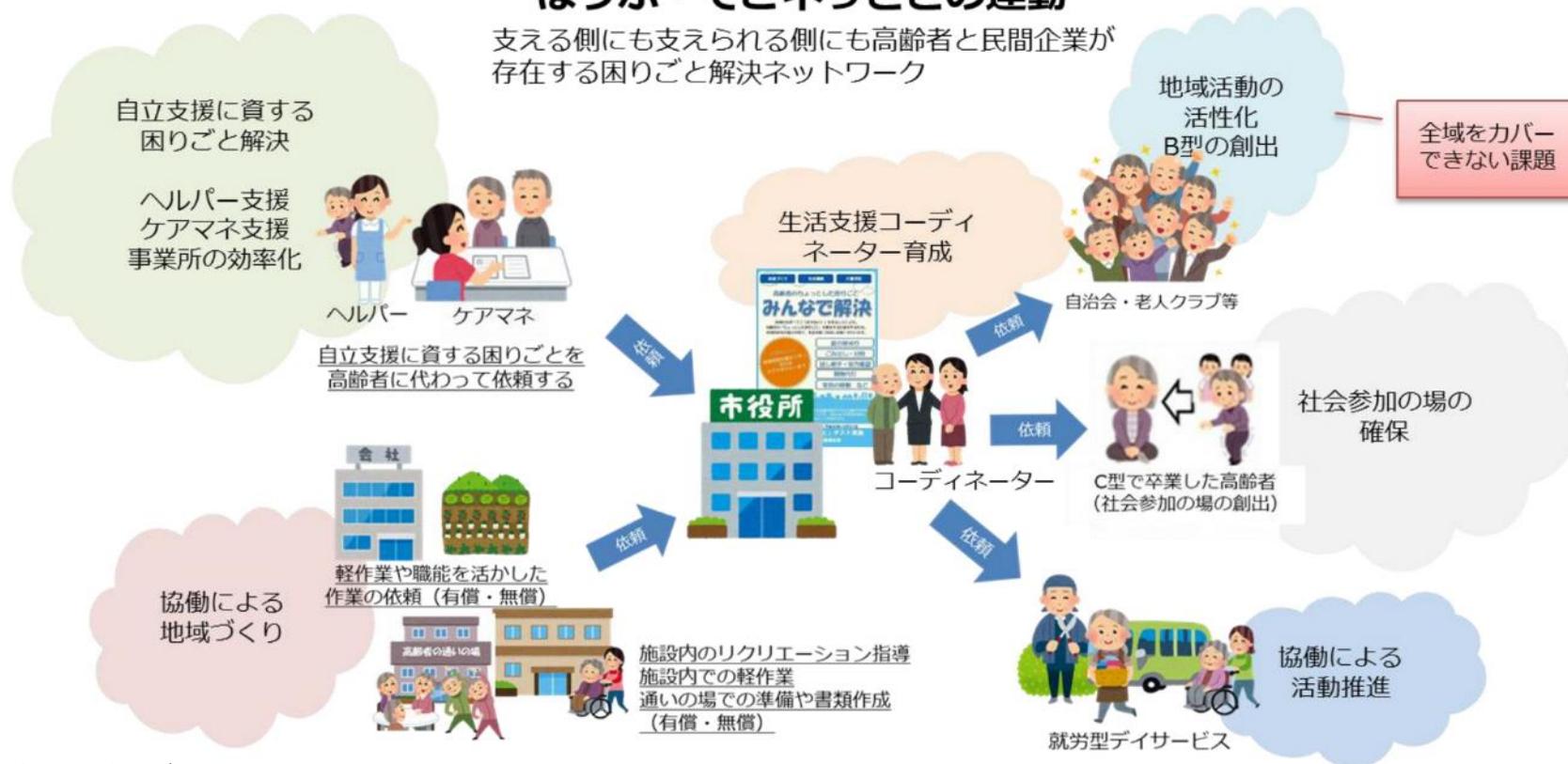
（事業の目的）

- ・ 高齢者の困りごと解決
- ・ 訪問事業の効率化
- ・ 地域活動の活性化
- ・ 高齢者の社会貢献活動への参加による生きがい創出、介護予防、健康増進

この仕組みによって、防府市の地域包括ケアシステムの深化をはかります。

## ほうふ・てごネっとの連動

支える側にも支えられる側にも高齢者と民間企業が存在する困りごと解決ネットワーク



# 臼杵市における重層的な支援の体制整備について（再掲）

- 臼杵市における重層的な支援体制の整備にあたって、これまでに高齢者分野を中心に培ってきた地域包括ケアシステム構築のノウハウを活かしつつ、各分野が持つスキルやネットワークを持ち寄るための「人（コーディネーター）」と「場（プラットフォーム）」の機能を整えていく。
- また、わがまちの大きな強みである「地域振興協議会（303の行政区が18カ所の旧小学校区単位でまとまって設立された地域運営組織）」による地域住民の参画と協働を強化するとともに、分野を超えた支援関係者の密な連携を強化できるよう参加型のプロセスを重視した体制整備を推進していく。

## 相談支援

多機関・多職種で地域を支える

【支える力を高めていく】

どこに相談しても、適切な支援につながる分野横断的な連携体制

『個人や世帯を取り巻く環境に働きかけるための分野横断的な協働体制の整備』

## 多機関連携の基盤強化

【生活困窮】 福祉課 社会福祉協議会 支援調整会議	【高齢者】 高齢者支援課 地域包括 地域ケア会議	【子ども子育て】 子ども子育て課 ちあぽーと 要対協	【障がい】 福祉課 相談支援機関 自立支援協議会	【医療】 保健健康課 医師会 臼杵市Z会議
------------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------

- ・ 臼杵市役所各課
- ・ 臼杵市社会福祉協議会
- ・ 臼杵市医師会
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 相談支援事業所
- ・ 市民後見センター
- ・ 社会福祉法人
- ・ ハローワーク
- ・ グリーンコープ
- ・ ワーカーズコープ
- ・ 若者支援団体
- ・ その他支援関係機関

## うすきプラットフォーム

～ 分野を問わず、課題や方向性を全体共有～  
「どこに相談しても、適切な支援につながっていく体制づくり」

## クロスファンクショナルチーム（CFT）

課題に応じたチームを随時編成し、機動性を高める  
(例：地域交通、ヤングケアラー、孤独・孤立対策等)

地域をフィールドに多様な経路でつながり、あらゆる人に社会参加の機会を増やしつつ、ゆるやかな見守り等を含む寄り添い型の支援が行える体制づくりを行う

## 参加支援

生活支援コーディネーター  
就労的活動支援コーディネーター  
就労準備事業者  
就労継続支援事業所 等

市内の各分野に  
コーディネーター人材を配置  
※ 各分野とのつなぎ/戻し

## 重層的支援会議 / 支援会議

社会福祉協議会に中核を担う  
コーディネーター人材を配置

## アウトリーチ等（継続的支援）

臼杵市役所  
利用者/相談支援事業者  
地域包括支援センター  
社会福祉協議会 等

## 地域づくり

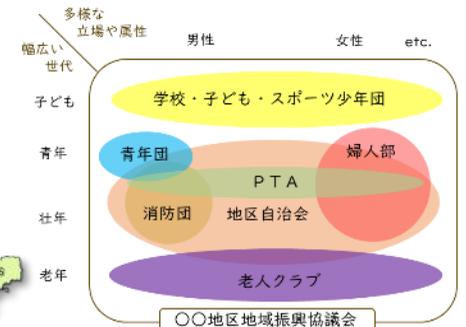
コミュニティで地域を守る

【守る力を高めていく】

魅力的な地域づくりと  
多様な人々の活躍の場づくり

## 地域連携の基盤強化

地域振興協議会のイメージ



※ 団体名はあくまで一例であり、地域ごとに構成団体は異なります。

旧小学校区エリア18カ所すべてに設立された地域振興協議会による「地域間連携」

## 地域振興懇談会（全18地域/年2回）

野津ブロック連絡会  
(7地域/隔月)

臼杵ブロック連絡会  
(11地域/隔月)

○ 現在、民間企業とどのような接点がありますか。

○ 民間企業との協働が図れると、どのようなことが期待できますか。

○ 民間企業との協働を推進するために、どのような方策が考えられますか。